

| | | | |
|-----------|----------|-------|------|
| 科目名 | 経済原論 | 科目責任者 | 山崎 勝 |
| 課題と試験担当教員 | 山崎 勝 | | |
| 履修方法 | T テキスト学習 | | |
| ナンバリング | CLAWP288 | | |

■ 科目概要

『経済原論』は、ミクロ経済理論とマクロ経済理論の両分野の基礎的な理論を中心に解説しています。また本科目は、ミクロ経済理論やマクロ経済理論の基礎的内容や理論を解りやすく解説することに努めたことから、重要ではあるが少々難解ないくつかのトピックは割愛してあり、また内容面でも基本的な部分にとどめています。

教科書は、第1章から第5章までは、ミクロ経済理論を内容としています。具体的には、市場メカニズム・家計の消費行動・企業の生産活動・完全競争と不完全競争・市場の失敗と政府の役割がふくまれます。第6章から第9章までは、マクロ経済理論を内容としています。具体的には、GDPの計測・国民所得水準の決定・貨幣市場の均衡と利子率の決定・IS-LM分析です。

学生個人の学習としては、まず基本となるテキストを体系的に、かつ意識を集中して熟読していただきたいと思います。次に各章末の「復習問題」や「基本用語」を調べ理解してください。そして「演習問題」を解いて理解を深めてください。

■ 到達目標

ミクロ経済理論とマクロ経済理論の基本的理論を理解することを目標とします。

■ 科目の計画・内容

| 学習範囲 該当する章など | 学習内容 |
|--|---|
| スタディ・ガイド | 経済原論の学習の仕方を解説。 具体的には、「学習の進め方」で、経済原論をどのような方法で学習すればよいかについてのアドバイスが述べられています。「本書の構成」では、全体の構成と各章のポイントがまとめられています。「数学記号・図表について」では、基本的な数式などが各章ごとにまとめられています。 |
| 第1章 市場メカニズム 第Ⅰ節 ミクロ経済学の課題 | ミクロ経済学の課題 ミクロ経済学は、「資源配分」に関わる諸問題を理論的に解明する学問です。そのためには資源配分の制度的な仕組みを知らなくてはなりません。また市場メカニズムの基本的特質、価格の役割などを学習します。 |
| 第1章第Ⅱ節 需要と供給 | 需要と供給 ミクロ経済学は、個別経済主体の行動とそれらの市場での行動を対象としています。そのため、第Ⅱ節では買い手の行動と売り手の行動を理論的に定式化すること（需要曲線と供給曲線）を学習します。 |
| 第1章第Ⅲ節 需要・供給の法則 | 需要と供給の法則 (1) 需要と供給とが均衡する価格と数量がどのようにして決定されるのか。 (2) 需要と供給のいずれかの力が強いとき、市場ではどのような調整が行われるか。 |
| 第1章第Ⅳ節 需要と供給の価格弾力性 | 需要と供給の価格弾力性 需要曲線は右下がり、供給曲線は右上がりに描かれる。それぞれの曲線の傾きの程度がどうであるか。このような傾きは「弾力性」の概念で説明される。第Ⅳ節では、需要の価格弾力性、供給の価格弾力性の概念を学習します。 |
| 第1章第Ⅴ節 与件の変化と均衡の変化 (需要曲線のシフト、需要曲線のシフトと均衡価格の変化) | 与件の変化と均衡の変化 市場は常に安定しているわけではない。市場の変動はなぜ起こるのか。市場均衡が変化する原因は需要曲線、供給曲線の動きにある。ここでは、需要曲線の動きに焦点を当てて市場の変化を学習します。 |

| 学習範囲 該当する章など | 学習内容 |
|--|--|
| 第1章第V節 与件の変化と均衡 の変化 (供給曲線のシフト、供給曲線のシフトと均衡価格の変化) | 与件の変化と均衡の変化 同上の問題について、ここでは、供給曲線の動きに焦点を当てて市場の変化を学習します。 |
| 第1章の復習問題 | 第1章の理解度を確認するために、復習問題を解きます。時間の余裕がある場合は、「基本用語」を教科書や経済辞典などで調べてノートにまとめてください。 |
| 第2章 家計の消費行動 第I節 無差別曲線の概念 (無差別曲線、無差別曲線の仮定と性質) | 無差別曲線の概念 家計の消費行動についての基礎的理論として、無差別曲線の概念、特に無差別曲線と無差別曲線の仮定と性質に焦点を当てて学習します。 |
| 第2章第II節 最適消費の選択 | 最適消費の選択 消費者は限られた支出可能な予算の中で、効用が最大になるような消費の選択をします。消費者が最適な消費の選択を行うための理論を学習します。 |
| 第2章第II節 限界代替率と相対価格 | 限界代替率と相対価格 上の項目の最適消費の選択では、無差別曲線と予算制約線が接する点で消費者均衡が成立する。この点で最適消費が決定される。つまりこの均衡点は無差別曲線と予算制約線の傾きが等しいことを表しています。このことを理論的に解明するのが、限界代替率と相対価格です。以上のことを学習します。 |
| 第2章第III節 所得の変化と需要の変化 | 所得の変化と需要の変化 第III節では、消費者の所得が変化する時に、消費者の需要量はどのように変化するかを学習します。 |
| 第2章第IV節 価格の変化と需要の変化 | 第IV節では、所得は変化しないものと仮定して、財の価格が変化した場合について学習します。 |
| 第2章の復習問題 | 第2章の理解度を確認するために、復習問題を解きます。時間に余裕がある場合は、「基本用語」を教科書や経済辞典などで調べてノートにまとめてください。 |
| 第6章 GDPの計測 第I節 マクロ経済学の課題 | マクロ経済学の課題 マクロ経済学は、一国経済全体を対象として理論構築した学問です。第I節のポイントは、(1)古典派経済学とケインズ経済学の相異、(2)マクロ経済学の課題と主な研究課題、について学習します。 |
| 第6章第II節 GDPの概念 (国内総生産と国民総生産) | 国内総生産と国民総生産の概念について基本的な事項を学習します。 |
| 第6章第III節 GDPの分配と支出 (国内総生産の分配) | 国内総生産の分配 国内総生産は、「生産」の側面から集計した総額です。生産するためには、生産要素が投入されます。生産に寄与した生産要素に対して費用が支払われます。これは各経済主体にとっては、所得として分配されることとなります。 |
| 第6章第III節 GDPの分配と支出 (国内総生産の支出) | 各経済主体に分配されたGDPは、各経済主体によって財・サービスの支出にあてられます。ここでは、国内総生産の支出について、詳しく学習します。 |
| 第6章第IV節 GDEと貯蓄・投資 | 国内総生産は生産・分配・支出の3つの面から捉えることができます。生産と分配は「総供給」を表すのに対して、支出は「総需要」に相当します。第IV節では、需要面である国内総支出に関するいくつかの概念を学習します。 |
| 第6章第V節 名目GDPと実質GDP | GDPは名目値と実質値があります。第V節では、名目と実質の区別、物価指数の計測、インフレ・デフレの問題点などを学習します。 |
| 第6章の復習問題 | 第6章の理解度を確認するために復習問題を解きます。時間に余裕がある場合は、「基本用語」を教科書や経済辞典などで調べてノートにまとめてください。 |

| 学習範囲 該当する章など | 学習内容 |
|--|---|
| 第7章 国民所得水準の決定 第I節 有効需要の原理 | 有効需要の原理 「有効需要の原理」は、ケインズの均衡国民所得決定理論に背景となる重要な理論です。「有効需要の原理」の背景にある様々な理論を学習します。 |
| 第7章第II節 総需要の構造 | 総需要とは、一国全体の需要を表します。また、総需要はケインズの理論分析の中心でもあります。そのため第II節では、総需要の構造を明らかにしようと試みています。特に「消費需要」と「投資需要」に焦点を当てています。 |
| 第7章第III節 均衡国民所得の決定 (ケインズ・モデルの前提条件、均衡国民所得の概念、45度線法による国民所得の決定) | ケインズの均衡国民所得の決定。 第III節では、ケインズ理論による均衡国民所得の決定について学習します。 必要な事項は、ケインズ・モデルの前提条件、均衡国民所得の概念、45度線法による国民所得の決定などです。 |
| 第7章第III節 均衡国民所得の決定 (貯蓄と投資の均等による国民所得の決定) | 「貯蓄」と「投資」が均衡するところで均衡国民所得が決定されるという理論を学習します。 |
| 第7章第IV節 投資乗数のメカニズム (投資乗数の理論) | 投資乗数の理論。 投資乗数理論は、ケインズの核心的な理論の1つでもあります。この理論は、投資が変化したときに国民所得がどれほど変化するかを明らかにする理論です。 |
| 第7章第IV節 投資乗数のメカニズム (インフレ・ギャップとデフレ・ギャップ) | インフレ・ギャップとデフレ・ギャップ。 インフレ・ギャップとデフレ・ギャップは完全雇用国民所得と乖離のある総生産の場合に起こる現象といわれます。このような場合には、何らかの経済政策によって補正する必要があります。どのような補正方法があるかを学習します。 |
| 第7章第V節 国民所得決定モデルの拡張 | これまで本書で取り上げた国民所得の決定理論は、「政府部門」と「海外部門」を除外してきました。第V節では、この2つの部門を取り入れた拡張した国民所得の決定を学習します。 |
| 第7章の復習問題 | 第7章の理解度を確認するために復習問題を解きます。時間に余裕がある場合は、「基本用語」を教科書や経済辞典などで調べてノートにまとめてください。 |

■ 学習方法・評価

| 種別 | 評価基準 |
|------|--|
| 試験 | ミクロ経済理論とマクロ経済理論について、各出題問題の概念を理解しているか。また、図表等を用いて論理的な説明がなされているか。 |
| レポート | 各課題の意図を正確に理解していること、教科書を十分に学習していること、レポート全体の論理構成などについて評価します。 |

■ 評価方法

- 科目試験：70%
- レポート：30%

■ 教科書

書名：経済原論

著者名：岸野文雄
出版社名：創大出版会
出版年：平14.2
版：
刷：
ISBN：

■ 参考書

■ 履修上のアドバイス

教科書は時間をかけて精読してください。レポート課題や科目試験出題範囲にある経済用語の概念を正確に理解してください。また、ミクロ経済およびマクロ経済の主要な理論は、数式や図表などを正確に理解して説明できるようにノートなどに整理してください。

■ 自習時間

レポート課題は1課題につき、15～20時間をかけて作成してください。科目試験の準備は15時間の学習を目標にしてください。

■ 担当者のプロフィール

- 1986年 創価大学大学院経済学研究科博士後期課程入学
- 1986年 タイ王国タマサート大学大学院留学
- 1990年 創価大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得満期退学（経済学修士）
- 1990年 創価大学アジア研究所助手
- 1999年 創価大学アジア研究所助教授
- 2006年 創価大学通信教育部、現在に至る